
2005年3月期 中間決算説明会

株式会社 トクヤマ

2004年11月12日



説明内容

1. 05年3月期 中間決算 P 3～
2. 通期業績予想 P16～
3. 3ヶ年計画の総括 P25～
4. 最近のトピックス P32～
5. 補足資料 P36～



1. 05年3月期 中間決算

(1) 決算概要

(2) 決算要因分析

(3) 業績推移



1-(1) 決算概要

(億円)

	04/上		03/上		差	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
【損益状況】						
売上高	1,118	725	1,083	714	35	10
営業利益	70	39	60	42	9	▲ 2
経常利益	55	35	39	26	16	8
当期純利益	22	28	13	12	9	15
【資産状況】						
総資産	3,040	2,491	3,066	2,449	▲ 25	42
株主資本	1,240	1,189	1,170	1,113	70	76
株主資本比率	40.8%	47.8%	38.2%	45.4%	2.6%	2.4%



1-(2) 決算要因分析

- ① セグメント別 増減要因
- ② セグメント別 売上高/営業利益
- ③ 営業外損益明細(連結)
- ④ 特別損益明細(連結)



前中間期のセグメント別営業利益

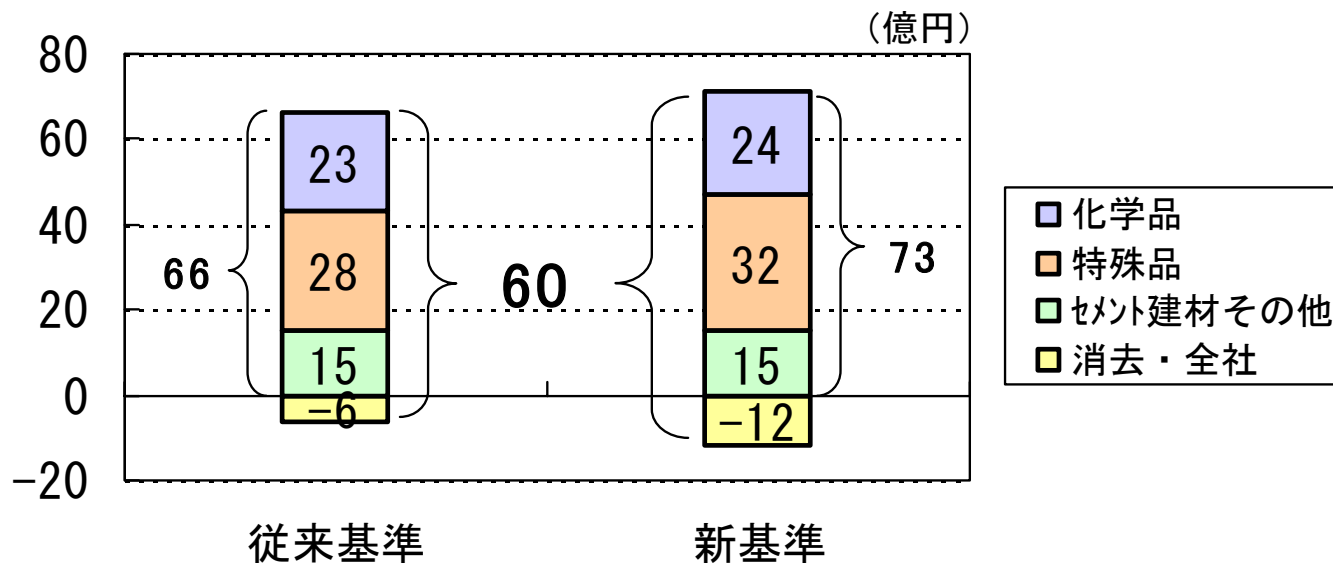
-新費用配賦方法による-

04年上期から新費用配賦方法を採用

比較のため前年中間期のセグメント別営業利益を組替えて表示

	従 来	04年度以降	影 響
全社研究開発費	セグメントへ配賦	「セグメント間消去・全社費用」へ	セグメントは利益増 消去・全社はマイナスが増
一般管理部門（総務・経理等）の費用	「セグメント間消去・全社費用」へ	セグメントへ配賦	セグメントは利益減 消去・全社はマイナスが減

03年上期セグメント別営業利益の新旧比



① セグメント別 増減要因

(04上期、03上期とも新費用配賦方法による表示)

(億円)

	04/上		03/上		差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	447	32	443	24	3	7
特殊品	317	39	295	32	21	6
セメント建材・他	354	13	344	15	9	▲ 2
計	1,118	84	1,083	73	35	11
セグメント間消去・全社費用	-	▲ 14	-	▲ 12	-	▲ 1
連結決算	1,118	70	1,083	60	35	9

※今回より売上高は外部売上高により表示しております



セグメント別 増減要因：化学品

(億円)

	売上高			営業利益		
	04/上	03/上	差	04/上	03/上	差
トクヤマ	321	325	△ 3	19	23	△ 4
グループ会社	125	117	+ 7	13	1	+12
化学品 計	447	443	+ 3	32	24	+ 7

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	クロル・アルカリ 苛性ソーダ・P Oの販売好調 ソーダ灰・塩カル 珪酸ソーダ等の販売低迷 N F 販売数量減 ラップフィルム事業の営業譲渡により減収(▲6)	ソーダ灰・塩カル 原材料費・固定費のアップもあり減益 N O C 原料高騰を価格是正でカバーできず減益 N F 販売数量減により減益
グループ	新第一塩ビ 価格是正により増収 サン・トックス 数量増・価格是正により増収 トクヤマホームプロダクツの営業譲渡により減収(▲12)	新第一塩ビ 価格是正により回復 サン・トックス 原料高騰を価格是正でカバーできず減益



セグメント別 増減要因：特殊品

(億円)

	売上高			営業利益		
	04/上	03/上	差	04/上	03/上	差
トクヤマ	217	207	+ 9	29	23	+ 6
グループ会社	100	88	+11	9	9	0
特殊品 計	317	295	+21	39	32	+ 6

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	<p>【S i 事業】 増収</p> <p>電子材料 多結晶シリコンの販売好調</p> <p>機能性粉体 乾式シリカ堅調なるも湿式シリカは苦戦</p> <p>【機能材料事業】 微減</p> <p>半導体・液晶向け高純度薬品は販売好調</p> <p>窒化アルミニウム、ファインケミカルは販売不振</p>	<p>【S i 事業】</p> <p>電子材料 半導体向け販売が伸び増益</p> <p>機能性粉体 湿式シリカ低迷により減益</p> <p>【機能材料事業】</p> <p>窒化アルミニウム、ファインケミカルの不振により減益</p>
グループ	<p>アストム 今期フル連結・堅調</p> <p>台湾徳亜瑪、トクヤマ・エレクトロニック・ケミカル*</p> <p>半導体・液晶向け高純度薬品好調により増収</p> <p>ユーロディア 物件の販売遅れで減収</p> <p>エイアンドティー 検査試薬販売減</p>	<p>アストム 今期フル連結・堅調により増益</p> <p>台湾徳亜瑪、トクヤマ・エレクトロニック・ケミカル*</p> <p>半導体・液晶向け高純度薬品好調により増益</p> <p>ユーロディア 物件の販売遅れで減益</p> <p>エイアンドティー 検査試薬販売減</p>



セグメント別 増減要因：セメント建材その他

(億円)

	売上高			営業利益		
	04/上	03/上	差	04/上	03/上	差
トクヤマ	186	182	+ 4	5	7	△ 2
グループ会社	167	162	+ 5	7	7	0
セメント建材他 計	354	344	+ 9	13	15	△ 2

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	国内販売量の減少を輸出拡大、固化材増でカバー 資源環境事業の拡大で増収	石炭高騰に対して価格是正が遅れ減益 資源環境事業は好調
グループ	シャノン 関東以西での拡販により増収 生コン会社 需要減により減収	シャノン 材料費・販売費が増加し微減益



② セグメント別 売上高/営業利益

(04上期、03上期とも新費用配賦方法による表示)

(億円)

	04/上		03/上		差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	447	32	443	24	3	7
トクヤマ	321	19	325	23	▲ 3	▲ 4
Gr. 会社(連結修正含む)	125	13	117	1	7	12
特殊品	317	39	295	32	21	6
トクヤマ	217	29	207	23	9	6
Gr. 会社(連結修正含む)	100	9	88	9	11	0
セメント建材・他	354	13	344	15	9	▲ 2
トクヤマ	186	5	182	7	4	▲ 2
Gr. 会社(連結修正含む)	167	7	162	7	5	0
計	1,118	84	1,083	73	35	11
セグメント間消去・全社費用	-	▲ 14	-	▲ 12	-	▲ 1
連結決算	1,118	70	1,083	60	35	9

※今回より売上高は外部売上高により表示しております



③ 営業外損益明細(連結)

(億円)

		04/上	03/上	差	摘 要
営業外収益	受取利息配当	2	1	0	
	その他	16	9	6	
		18	11	7	
営業外費用	支払利息・社債利息	10	13	▲ 2	
	出向者労務費差額	9	6	3	
	その他	13	13	0	
		33	33	0	
営業外損益		▲ 14	▲ 21	6	



④ 特別損益明細(連結)

(億円)

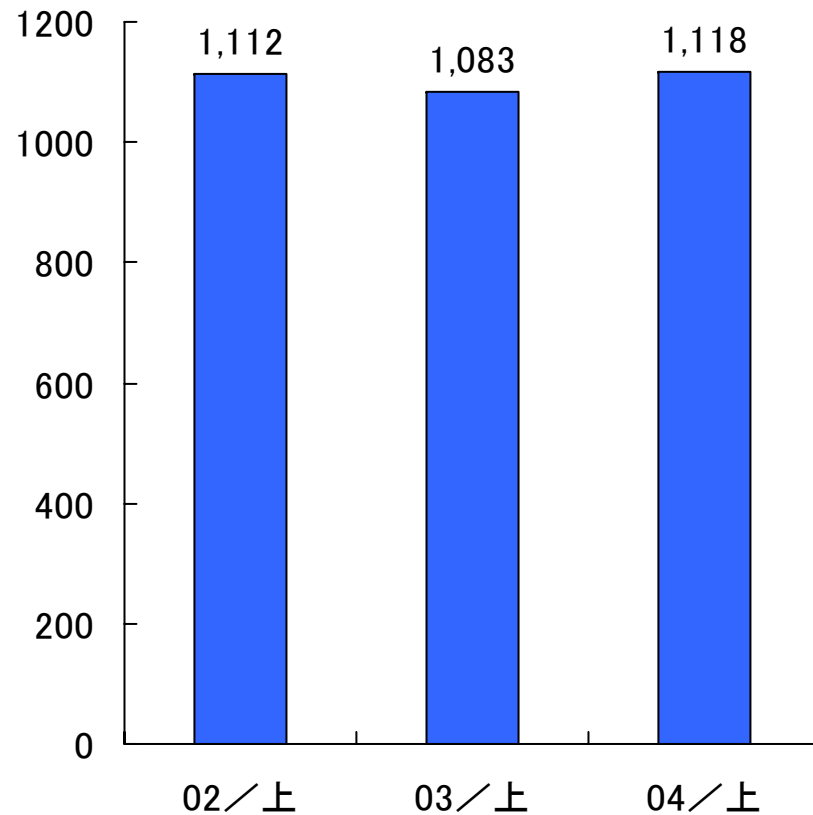
	04/上	03/上	差	備 考
特別利益	6	1	5	
特別損失	18	5	13	固定資産減損損失 ▲14
特別損益	▲ 11	▲ 3	▲ 7	



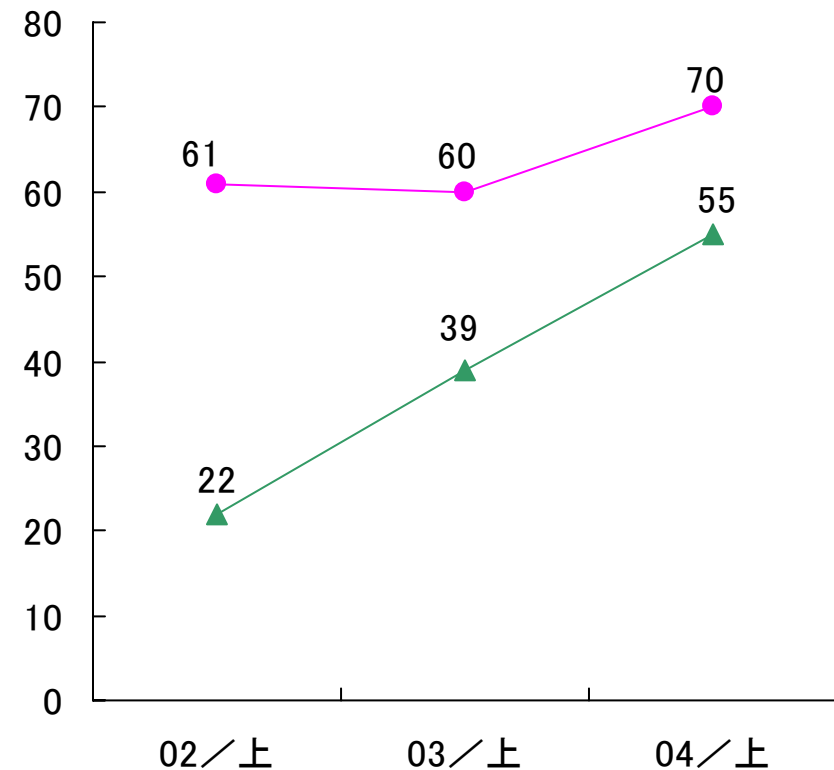
1-(3) 業績推移① (連結)

(億円)

売上推移



利益推移



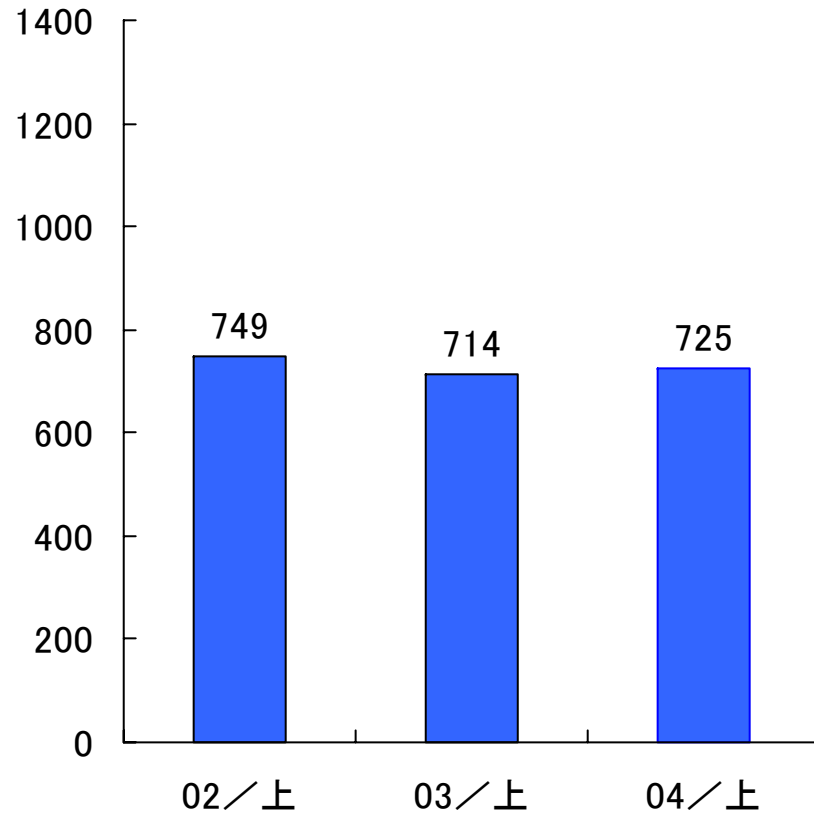
● 営業利益 ▲ 経常利益



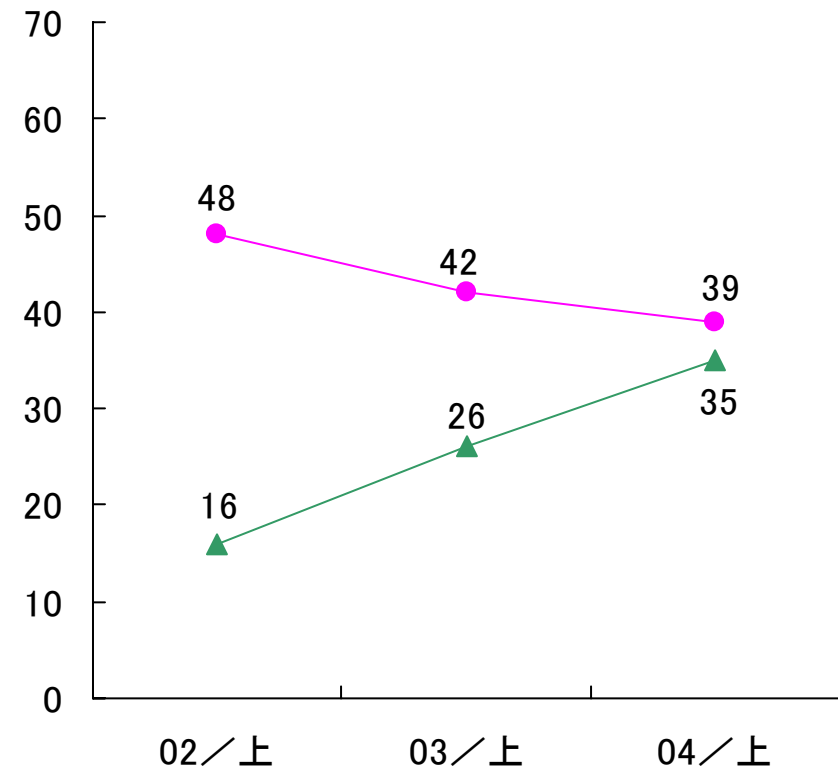
業績推移②（単体）

（億円）

売上推移



利益推移



● 営業利益 ▲ 経常利益



2. 通期業績予想

- (1) 04年度下期の事業環境
- (2) セグメント別 通期予想
- (3) 業績推移



2-(1) 04年度下期の事業環境

- 国内景気は堅調に推移
- 原燃料価格高騰により製品価格是正が急務
- I T 関連製品の需要見通しに不透明感



2-(2) セグメント別 通期予想

- ① セグメント別 売上高/営業利益
- ② セグメント別 売上高/営業利益推移
- ③ ここ10年間の業績推移



前年通期のセグメント別営業利益

—新費用配賦方法による—

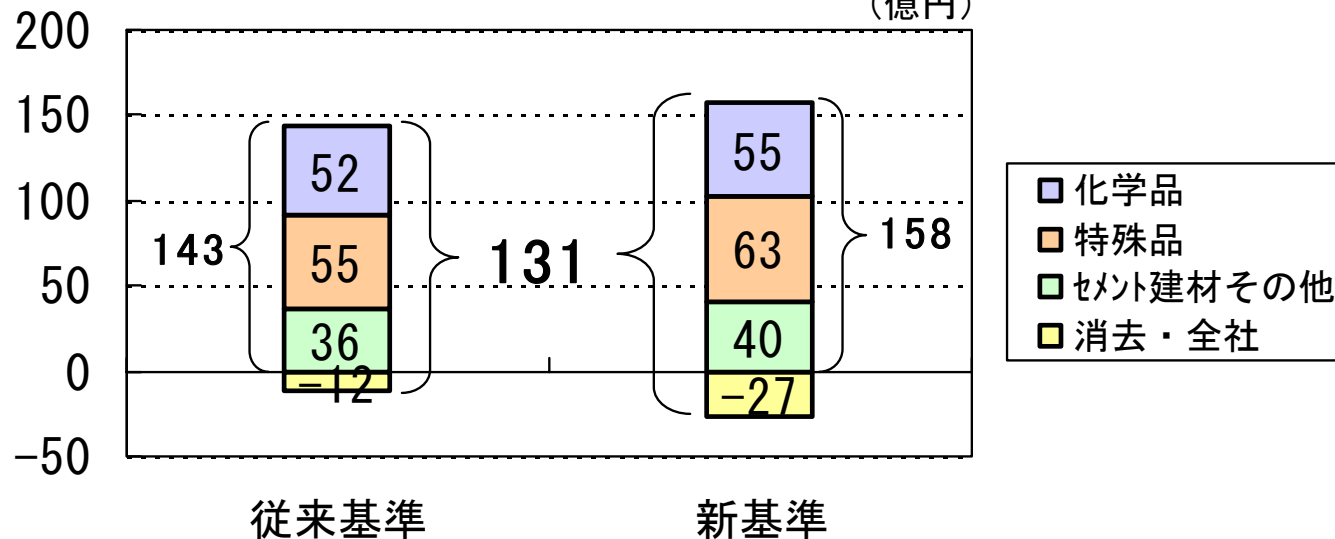
04年度から新費用配賦方法を採用

比較のため前年通期のセグメント別営業利益を組替えて表示

	従 来	04年度以降	影 響
全社研究開発費	セグメントへ配賦	「セグメント間消去・全社費用」へ	セグメントは利益増 消去・全社はマイナスが増
一般管理部門（総務・経理等）の費用	「セグメント間消去・全社費用」へ	セグメントへ配賦	セグメントは利益減 消去・全社はマイナスが減

03年度セグメント別営業利益の新旧比較

(億円)



① セグメント別 売上高/営業利益(通期比較)

(04予想、03実績は新費用配賦方法による表示)

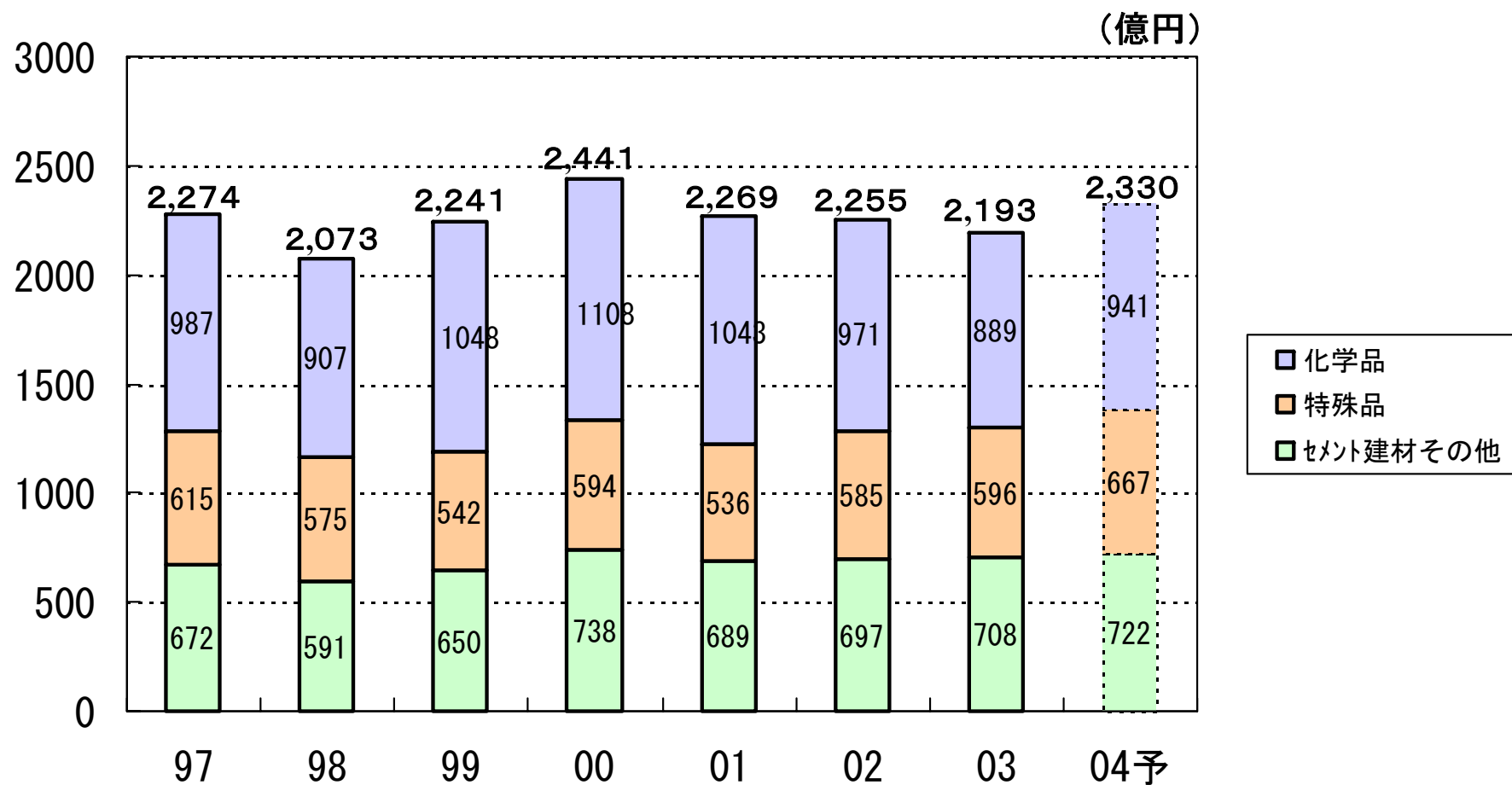
(億円)

	04通期予想		03通期実績		差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	941	71	889	55	52	16
トクヤマ	673	40	652	51	21	▲ 11
Gr. 会社(連結修正含む)	268	31	237	4	31	27
特殊品	667	86	596	63	71	23
トクヤマ	458	64	416	45	42	19
Gr. 会社(連結修正含む)	209	22	180	18	29	4
セメント建材・他	722	32	708	40	14	▲ 8
トクヤマ	389	18	382	25	7	▲ 7
Gr. 会社(連結修正含む)	333	14	326	15	7	▲ 1
計	2,330	189	2,193	159	136	30
セグメント間消去・全社費用	-	▲ 29	-	▲ 27	-	▲ 2
連結決算	2,330	160	2,193	131	136	28

※今回より売上高は外部売上高により表示しております



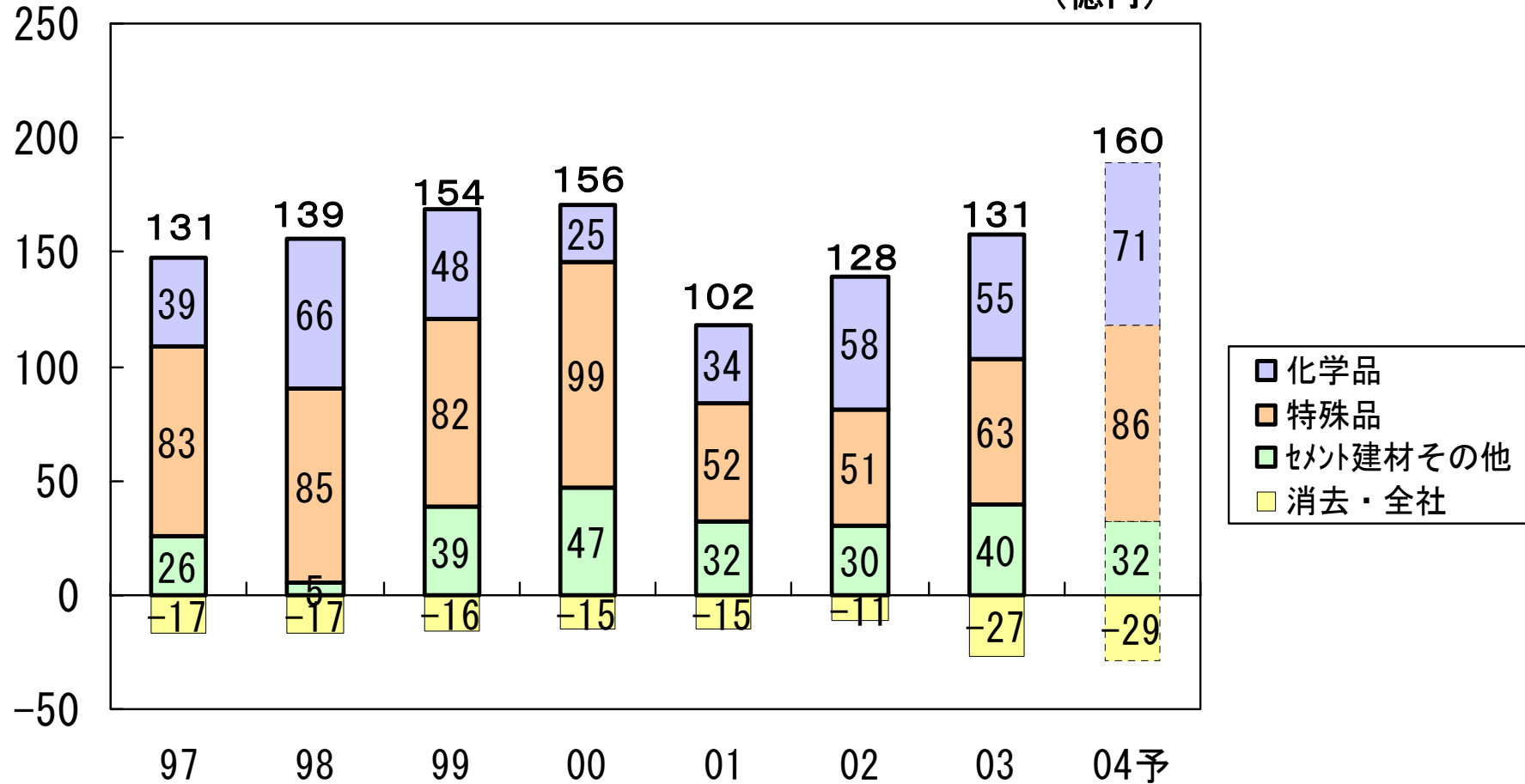
② セグメント別 売上高推移 (連結)



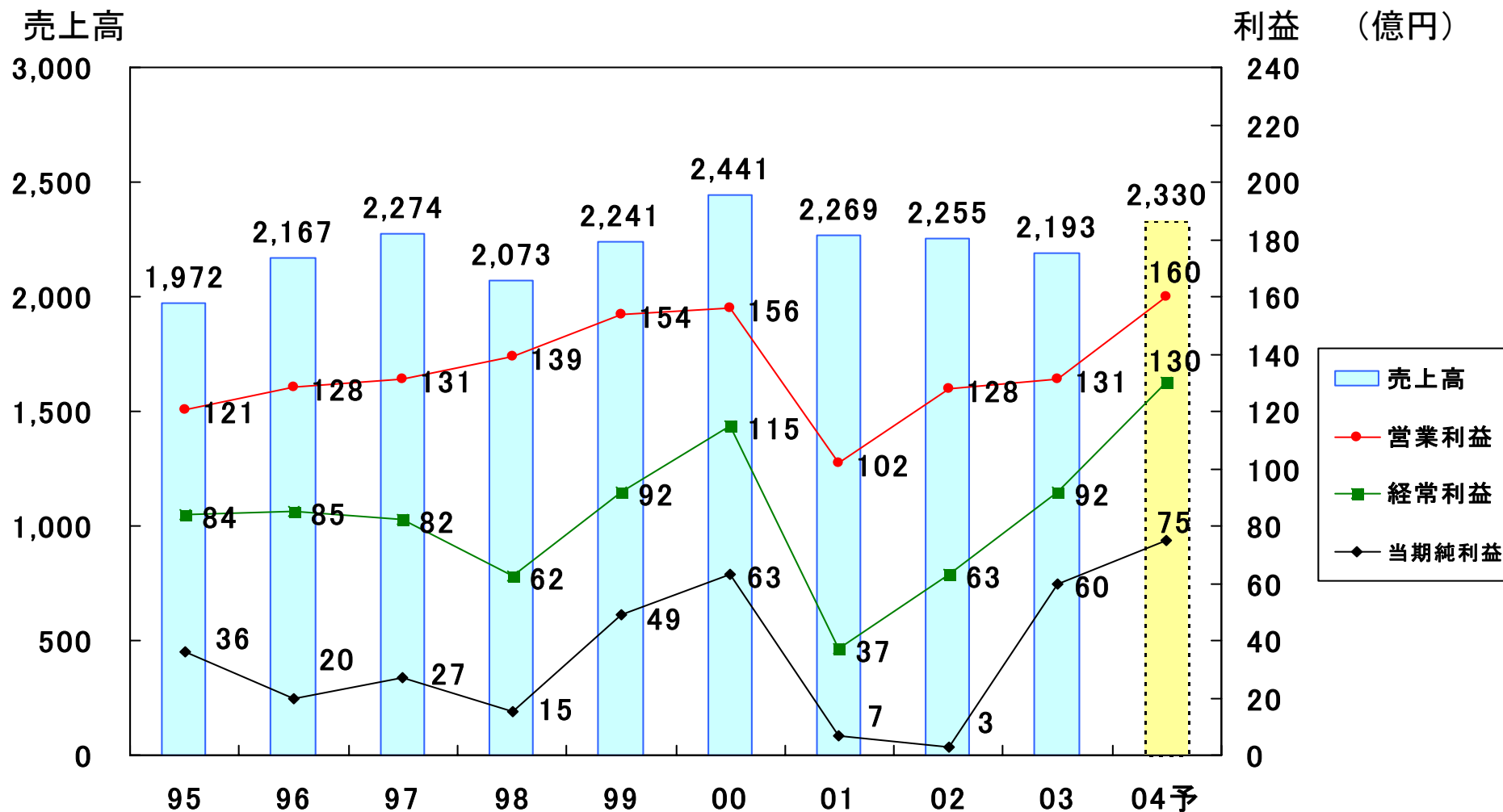
セグメント別 営業利益推移（連結）

（03年度、04年度は新費用配賦方法により表示）

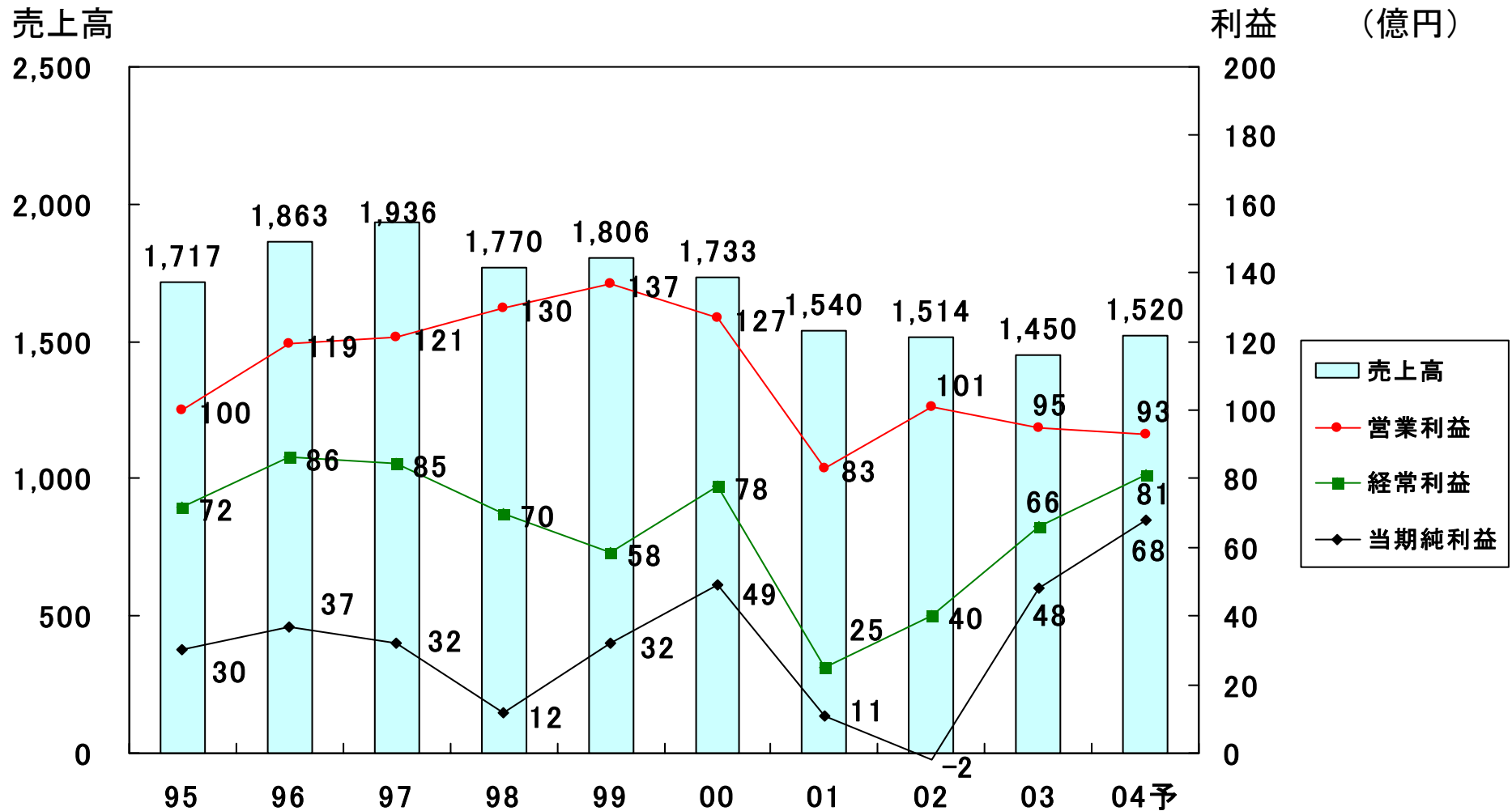
（億円）



③ ここ10年の業績推移（連結）



ここ10年の業績推移(単体)



3. 3ヶ年計画の総括

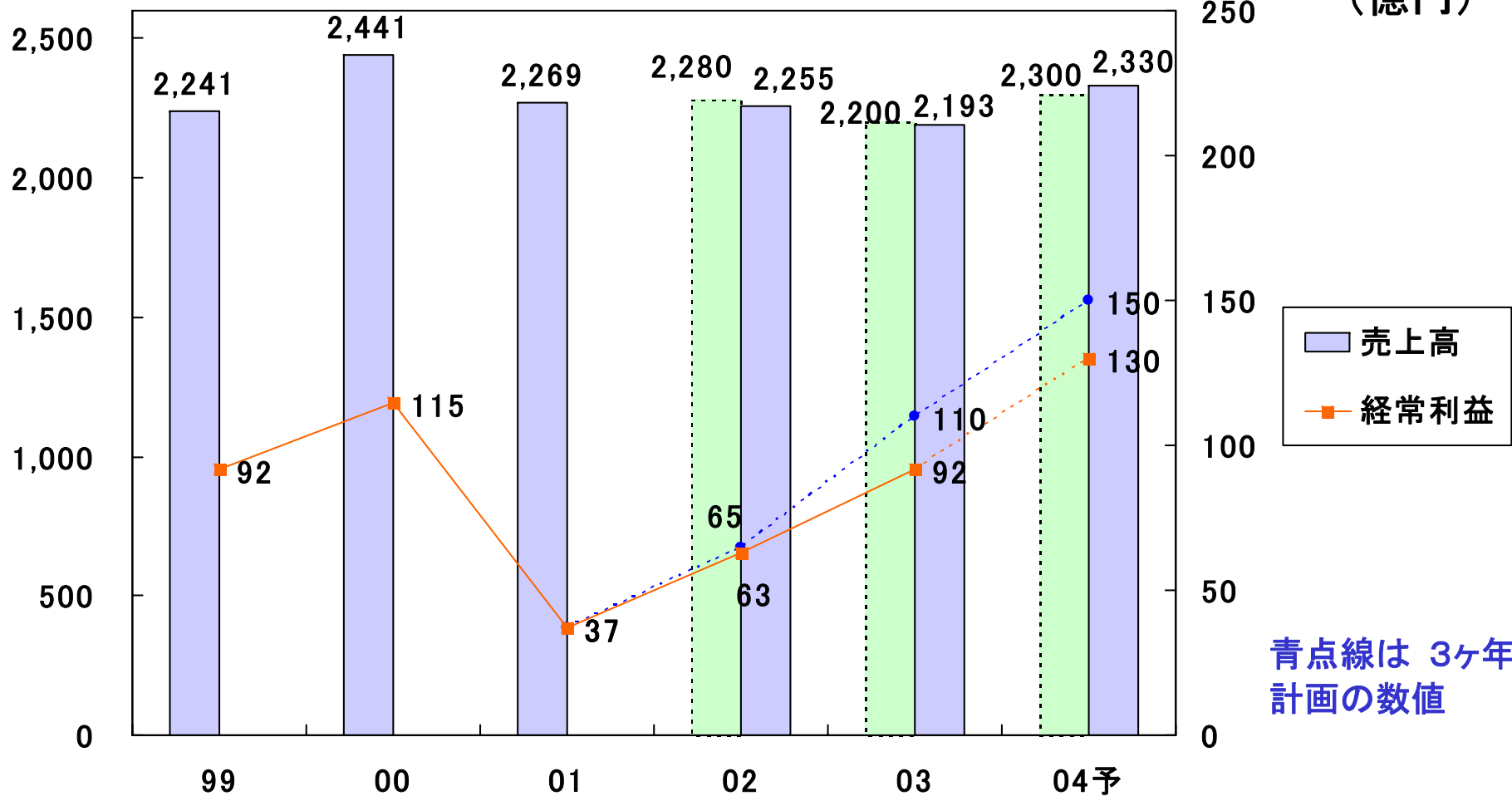
- (1) 3ヶ年計画経営目標に対する見込み
- (2) 3ヶ年計画の総括



3-(1) 経営目標の見込み①

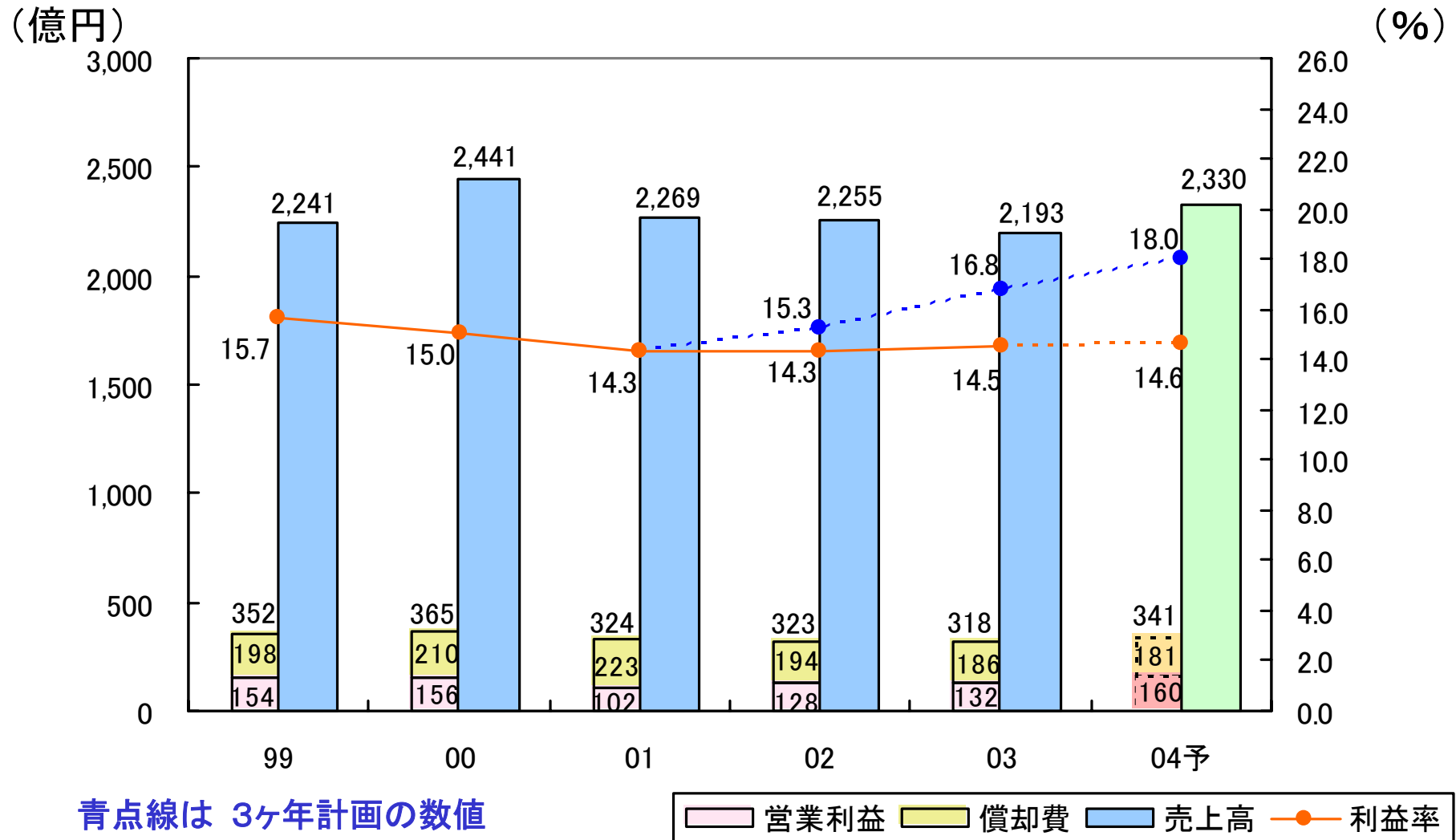
— 経常利益(連結) —

(億円)



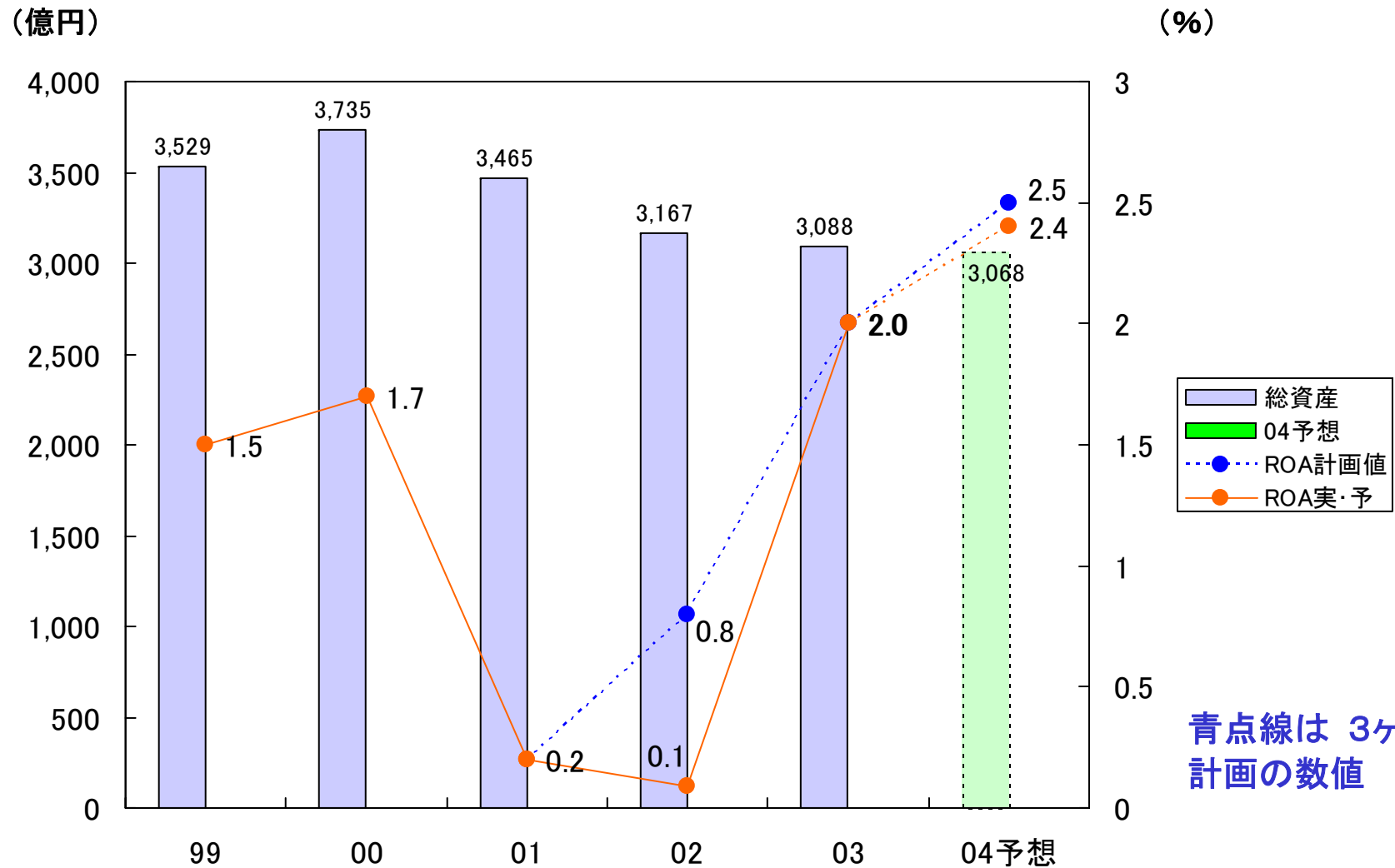
経営目標の見込み②

—売上高償却前営業利益率(連結)—



経営目標の見込み③

—ROA推移(連結)—



3-(2) 3ヶ年計画の総括①

■ 最終年度目標との対比

(億円)

	最終(04)年度目標	04年度見込み	差
売上高	2,300	2,330	+30
営業利益	210	160	▲50
経常利益	150以上	130	▲20
当期純利益	95	75	▲20
売上高償却前 営業利益率	18%以上	14.5%	▲3.5%
ROA	2.5%以上	2.4%	▲0.1%



3ヶ年計画の総括②

■ 数値目標について

◆ 売上高は計画をクリア

→ 販売数量増が寄与

◆ 営業利益・売上高償却前営業利益率は大幅な未達

→ 減価償却費の減少や人件費・経費の削減を大きく上回る販売価格の下落・原燃料価格の高騰が影響

◆ 経常利益・当期純利益未達

→ 目標未達もグループ全体での合理化努力が悪化を下支え

◆ ROAは計画をほぼクリア

→ 有利子負債削減が奏効



3ヶ年計画の総括③

- **経営体制**
経営会議が迅速な意思決定に機能
- **事業運営体制**
機能完結型部門制が定着
- **事業構造改革**
予定した事業構造改革は全て実施
- **業務の改革**
進行中
- **徳山製造所の競争力強化**
当初予定した成果はあがったが、それを上回る環境の悪化を受け
もう一段の競争力強化策が必要
- **財務体質の強化**
計画通り進捗したがさらに次のステップへ

「収益構造の再構築」に一定の成果があったと認識しているが
積み残した部分もあり、次期計画に織り込む



4. 最近のトピックス(抜粋)

■ 乾式シリカ増強（徳山製造所）

15,000トン／⇒20,000トンへ（+5,000トン）

04年7月着工、05年3月完成予定 投資金額 約30億円
アジア最大の乾式シリカメーカーへ

■ 多結晶シリコンの増強（徳山製造所）

①既存プラントの部分増強 4,800トン⇒5,200トンへ

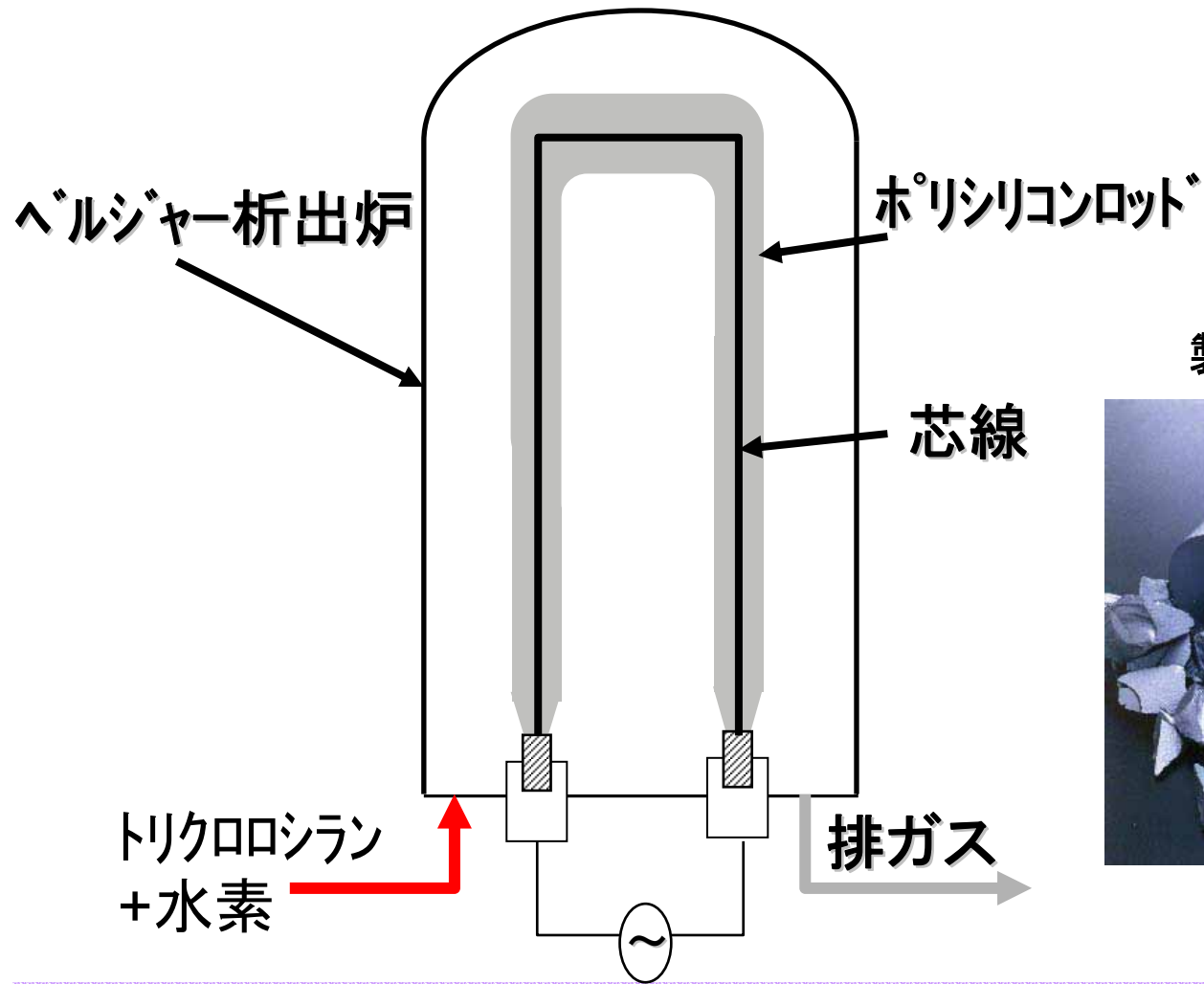
04年10～11月の定修時に実施。 投資金額 約10億円

②太陽電池用VLD法実証プラント建設

05年1月着工、05年12月完成予定 投資金額 約30億円



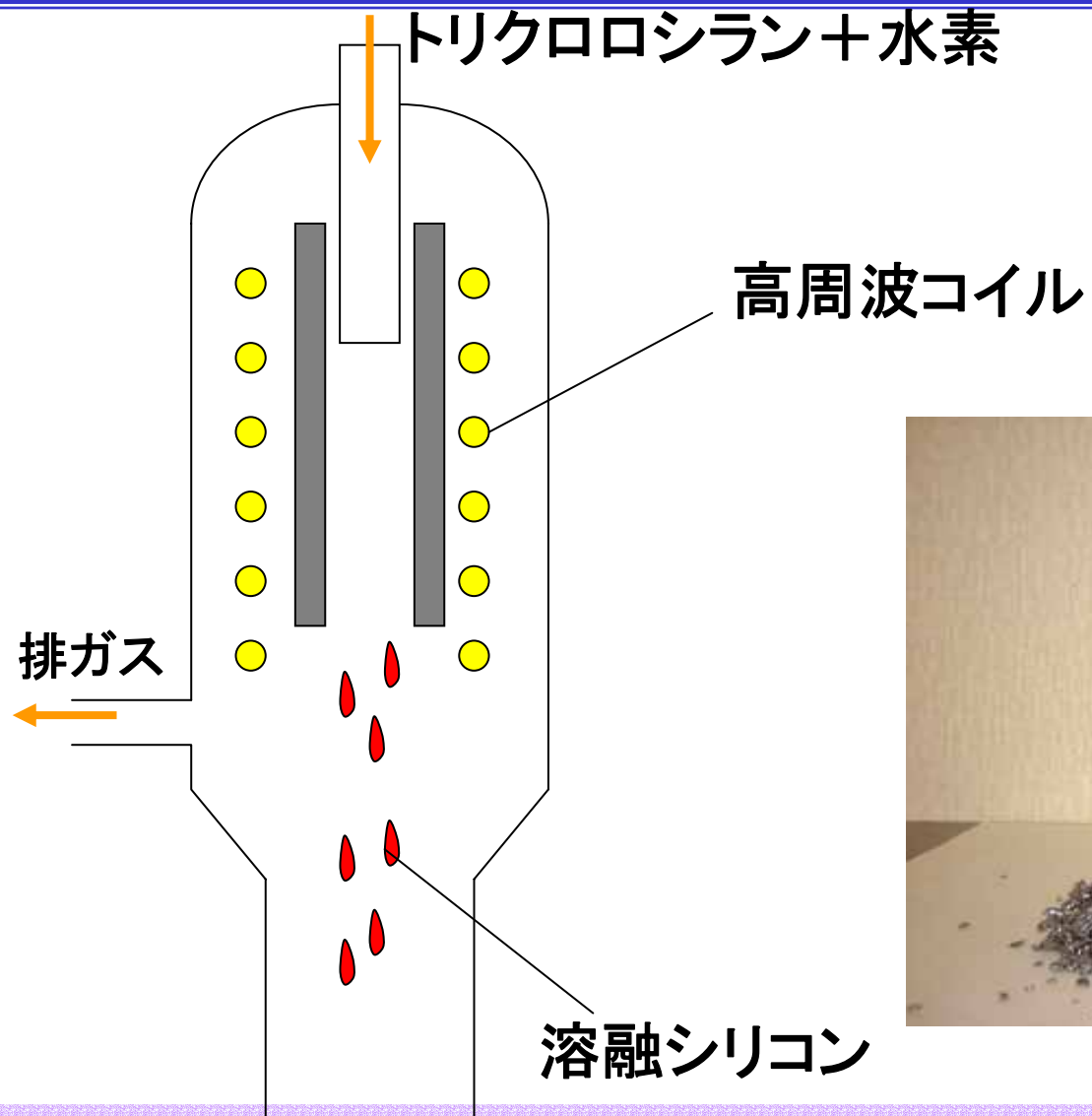
ジーマンス法 多結晶シリコン反応器



製品：ロッドとナゲット



トクヤマ VLD法 多結晶シリコン反応器



VLD法多結晶シリコン



■ (株)シャノン ビル用樹脂サッシ

共同開発・共同生産の開始

三協アルミ、立山アルミ、新日軽とともに4社で(株)PSJを設立
05年7月から出荷を開始予定

売上高：初年度10億円、3年後40億円を見込む

■ 山口大学と包括的連携協力協定を締結（徳山製造所）

製造技術の強化、コストダウン、安全・環境技術の改善等に繋げる



5. 補足資料

- (1) 主要指標
- (2) 有利子負債
- (3) 金融収支
- (4) 連結子会社・持分法適用会社数他
- (5) その他指標
- (6) フリーキャッシュフロー推移（連結）
- (7) 設備投資額推移（単体）
- (8) 有利子負債残高推移（連結）
- (9) 主要関係会社売上高一覧



(1) 主要指標①

		04年9月期		03年9月期		差	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	66	57	73	60	▲ 6	▲ 2
減価償却実施額	億円	87	69	89	71	▲ 1	▲ 1
研究開発費	億円	43	33	42	31	0	+ 1
期末有利子負債残高	億円	1,007	767	1,136	820	▲ 129	▲ 52
金融収支	億円	▲ 8	0	▲ 11	▲ 3	+ 3	+ 4
期末人員	人	4,631	2,052	4,627	2,157	+ 4	▲ 105



(1) 主要指標②

		04年度予想		03年度		02年度	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	175	150	162	138	131	104
減価償却費	億円	183	146	189	151	210	170
研究開発費	億円	91	70	87	65	77	60



(2)有利子負債

(億円)

	04年9月期		03年9月期		差	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
短期借入金	279	124	289	71	▲ 10	+ 52
長期借入金	380	295	400	302	▲ 20	▲ 6
社債	348	348	446	446	▲ 98	▲ 98
合計	1,007	767	1,136	820	▲129	▲ 52

※04年9月期の短期借入金（連結・単体）は商業紙55億円を含む



(3) 金融収支

(億円)

	04年9月期		03年9月期		差	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
受取利息 配当金	2.2	8.4	1.7	6.5	+0.5	+1.8
支払利息 社債利息	10.4	7.8	13.0	10.1	▲2.6	▲2.3
金融収支	▲8.1	+0.5	▲11.3	▲3.5	+3.1	+4.1



(4)連結子会社・持分法適用会社数

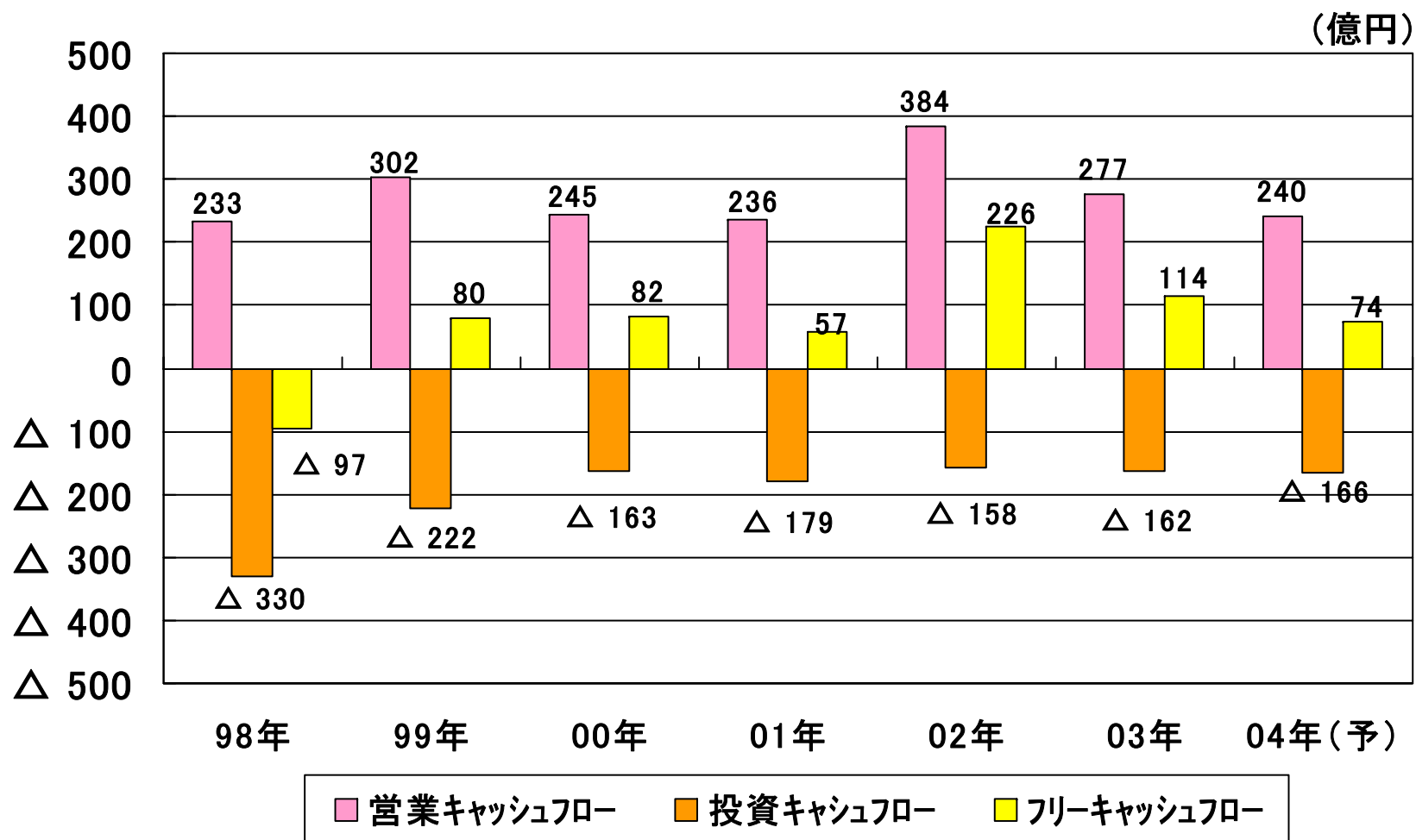
	04年9月期	03年9月期
連結子会社	43	40
持分法適用会社	16	16

(5)その他指標

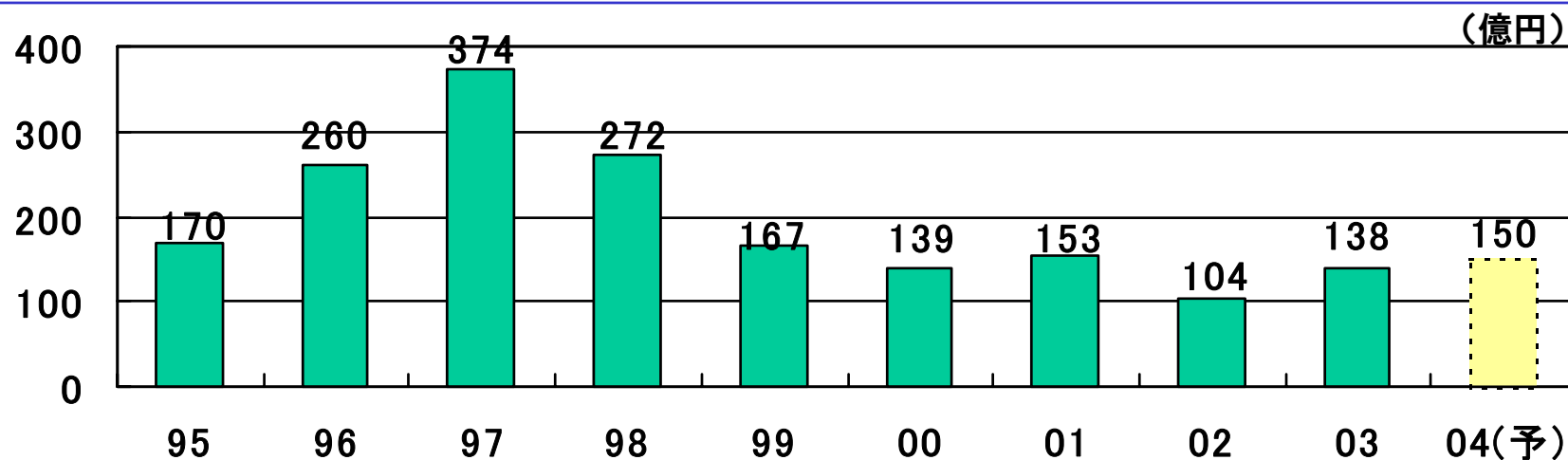
	04／下 予算	
国産ナフサ価格 (円／KL)		35,000
為替 (円／\$)	購買	111
	輸出	106



(6)フリーキャッシュフロー推移(連結)



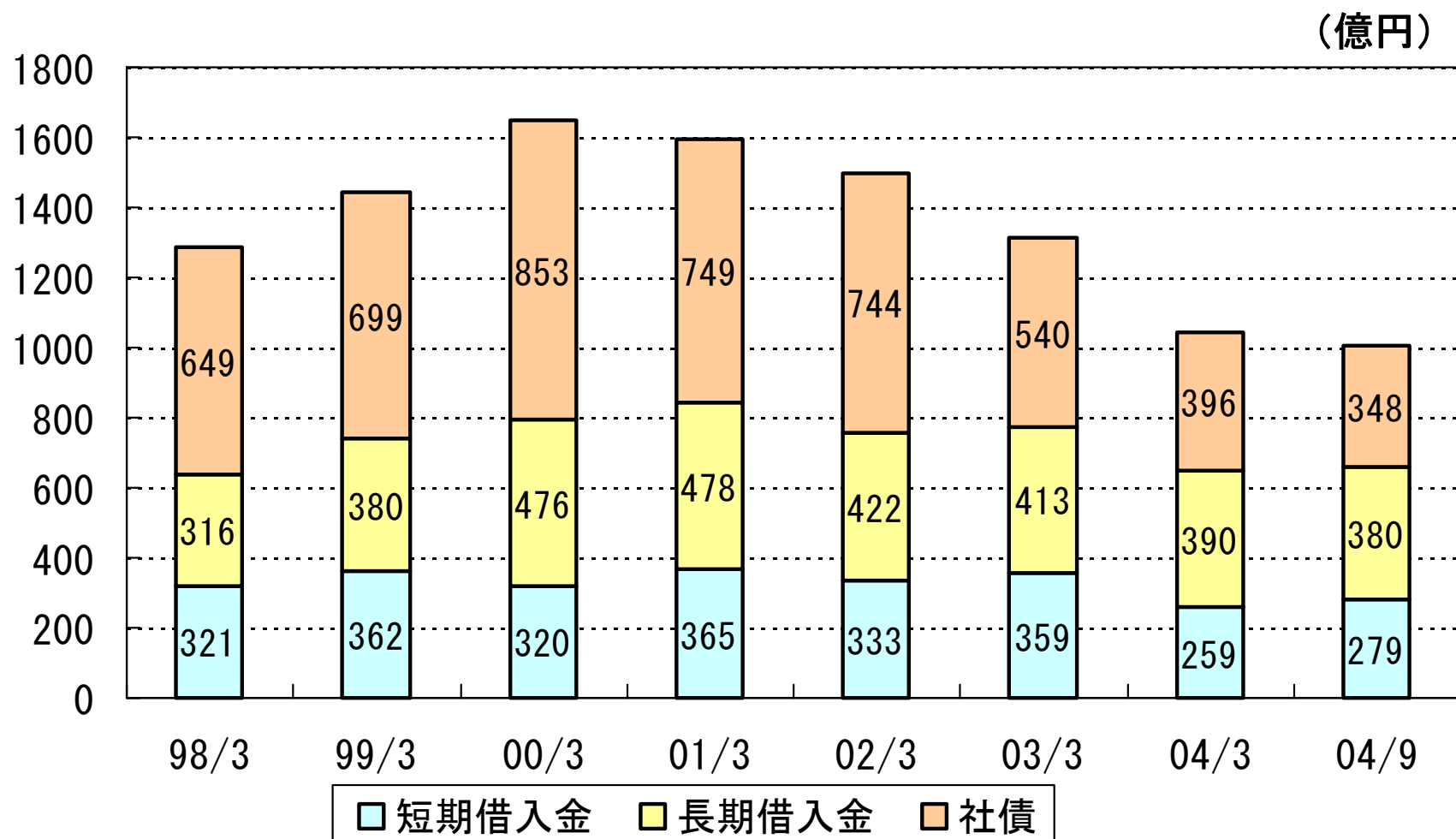
(7)設備投資額推移 (単体)



	97~99	00~02	03~
能力増強	東2号発電所 多結晶シリコン増設② シリカ増設 IPA増設 電解増設、マルチプラント 廃棄物燃料化設備①	多結晶シリコン 増設② 特殊シリカ増設② 窒化アルミ増設 電解・EDC増設 廃棄物燃料化設備②	廃棄物燃料化設備② 多結晶シリコン シリカ増設 現像液増設 9号タービン更新
合理化		8号ボイラー更新	8号ボイラー更新 動力部合理化
環境・省エネ	発電所排脱硫・脱硝・集塵 廃塩酸回収		電解S&B



(8)有利子負債残高推移(連結)



(9)主要関係会社売上高一覧 (04/上 売上上位10社)

	会社名	事業内容	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	売上高 (百万円)	
					04/上	03/上
①	新第一塩ビ(株)	塩化ビニル樹脂の製造販売	8,000	71	12,709	10,860
②	サン・トックス(株)	プラスチックフィルムの製造販売	1,600	100	5,927	5,465
③	(株)シャノン	プラスチックサッシの製造販売	495	100	5,247	5,181
④	オグリ湘南(株)	セメント・生コンクリート、 各種建設資材の販売	80	100	4,788	4,228
⑤	(株)トクヤマ通商	セメント・生コンクリート、 各種建設資材の販売	50	70	4,058	3,378
⑥	(株)エイアンドティー(12月決算)	臨床診断分析機器、試薬及 び関連システムの販売	578	52	2,951	3,063
⑦	(株)トクヤマロジスティクス	内航海運業、倉庫業、一般 貨物運送業、産業廃棄物収 集運搬業	100	100	2,673	2,601
⑧	周南システム産業(株)	宅地建物取引・建材販売、 生損保保険代理店、工場構 内作業請負	151	100	2,162	2,114
⑨	(株)トクヤマデンタル	歯科医療用器材及び関連材 料の製造販売	100	100	1,866	1,863
⑩	(株)トクショウ	生コンクリート、各種建設 資材の販売	40	100	1,853	1,560



本資料に関するご注意

- 本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- 本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。



生活を奏でる化学です

TOKUYAMA

